

1 事業総括

平成28年度の緊急一時保護及び社会復帰促進事業の入所世帯総数は132世帯と前年度並みであった。このうち緊急一時保護世帯の入所は126世帯、社会復帰促進事業は6世帯となっている。入所理由で高い比率を占めるものは、DV、親族不和、立ち退き、そして自立した生活困難となっているが、平成27年度と比較して、自立した生活困難な世帯が27世帯と倍増する結果となった。具体的には、近隣トラブルが原因のケースや生活困窮に陥り知人友人宅と転々として最終的には行き場がなくなり入所するケースである。こうしたケースは何らかの精神疾患を抱えていることが多く、宿泊所の体制で対応するには困難が伴っている。利用者の生活状況を的確に把握し、個々の世帯事情に応じた支援を提供するように努めている。

また、平成30年度に計画されている第2棟大規模改修工事に向けて、特別区人事・厚生事務組合や法人本部とも情報交換を密にし、長期利用者の円滑な退所に向けての対応を進めている。

〔利用実績〕

(単位：世帯)

	年度 累計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所世帯数	132	13	6	8	11	15	12	13	11	7	6	19	11
退所世帯数	136	11	8	9	16	15	11	7	16	11	10	13	9
月末在籍世帯数	平均 39.9	46	44	43	38	38	39	45	40	36	32	38	40
27年度	平均 41.3	34	40	46	42	46	46	44	37	35	41	40	44

〔退所理由〕

(単位：世帯)

	自 活	転 居	居 宅 移 管	入 院 除 籍	移 管 福 祉 施 設	任 意 退 所	無 断 退 所	命 令 退 所	等 同 居 帰 郷 ・ 親 族	勾 留 除 籍	死 亡	そ の 他	合 計
28年度	0	35	67	0	9	3	3	0	17	0	0	2	136
27年度	4	26	70	1	13	2	2	0	8	0	0	1	127

2 主要目標に対する成果

(1) 安心・安全な施設運営

利用者にとって安心・安全な生活環境の整備を進めた。また、毎日の安否確認は徹底して行った。日々の利用者との関わりを密にすることで、利用者の生活状況を適時に把握するとともに、利用者と施設職員との信頼関係を構築し、安心・安全な施設運営の土台づくりに努めた。

(2) 緊急一時保護事業における迅速な受入れ体制構築と転出促進

緊急一時保護事業のニーズに十分応えられるよう、退所後の居室の整備を速やかに行うことで、迅速かつ柔軟な受け入れができるよう努めた。また、福祉事務所や関係機関との緊密な情報共有を行うことで利用世帯のニーズを把握し、バックアップセンターの利用者支援事業などを積極的に活用して、利用世帯の個々の状況に応じた自立・転出に向けた支援の促進を行った。

(3) 利用者個々の生活状況に即した個別的支援の展開

利用者のストレングスに着目し、自立に向けた利用者自身の能力を引き出す支援を進めるとともに、利用者個々の生活課題に目を向けて個別的自立支援を行った。

(4) 福祉事務所や関係機関との連携強化と地域社会資源の活用

福祉事務所や関係機関と緊密な連携を取り、利用者に対してきめ細やかな支援を展開するとともに、地域の社会資源を積極的に活用することで利用者支援の充実を図った。

3 運営管理	
<p>(1) 日常の援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の世帯状況の把握に努め、福祉事務所や関係機関との連携を密にして個別課題の解決に向けた支援を実施した。 ・バックアップセンター利用者支援事業を積極的に活用することで専門相談による利用者世帯の個別課題の解決に向けた支援を実施した。 ・医療機関や地域社会資源などの情報提供し、心身の安定に向けた支援を実施した。 ・利用者の権利擁護のため、苦情解決制度の周知を行った。 <p>(2) 自立促進・転出促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅相談や専門業者を活用し、住宅情報や転宅手段等の情報提供を行い、転出先の確保を図った。都営住宅等の一般募集、特別割当募集などを積極的に活用した。 ・バックアップセンターや法人本部と連携し長期利用世帯の転出促進に取り組んだ。 ・東京ジョブステーション等の関係機関と連携し、就労支援を実施した。 <p>(3) 諸行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節感に富んだ行事を実施した。(七夕、花火、クリスマス、ハロウィン等) ・利用者との意見交換を深めるために利用者懇談会(年4回)を実施した。 ・施設独自にDV被害者ミーティングを毎月実施し、DV被害者の心のケアに努めた。 <p>(4) 消防・防災等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練(年3回)を実施した。水害対策マニュアルを策定するとともに、利用者向けの講話を行い、防災意識の啓発を図った。 ・災害備蓄品の整備、計画的な補充や入れ替えを行った。 ・防犯カメラを活用し、事故防止・安全管理の徹底を図った。 <p>(5) 職員会議等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の引継ぎ、業務日誌、所内LANを活用し迅速かつ確実な情報共有を行った。 ・所長会や寮長会等の報告や資料を供覧し、法人や福祉施策の動向の共有を図った。 ・人事評価制度や職員研修制度を活用し、人材育成を推進した。 <p>(6) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャワー室を整備し、第2棟の利用者へ清潔な入浴機会を提供した。 ・施設管理人との良好な関係を維持し、職員不在時の施設管理の強化に努めた。 	
4 保健衛生・環境整備	
<ul style="list-style-type: none"> ・保健栄養相談を活用し、利用者の健康増進を図った。 ・毎日の水質検査とともに、貯水槽清掃、排水管高圧洗浄(各年1回)を実施した。 ・利用者の生活充実のため、居室備品等の整備に努めた。 ・樹木剪定、除草を行い、敷地内の清潔維持に努めた。 ・利用者の生活充実のため、貸し出し物品の整備・拡充を図った。 	
5 施設の社会化(地域交流事業など)	
<ul style="list-style-type: none"> ・塩崎荘、新塩崎荘と合同で、福祉事務所向け施設見学会・事業説明会を開催した。 ・施設パンフレットを作成し、関係機関へ情報提供を行った。 ・関係機関等からの施設見学要請に随時対応した。 ・近隣の小・中学校、保健所、福祉施設との連携強化に努めた。 	
6 福祉サービス第三者評価 評価結果	
評価機関：	実施期間：
→平成28年度は実施なし。	施設コメント：